こどものための造形作家
早未恵理（はやみ）さんによる
トーク&工作ワークショップ

●東京新聞こどもブックワールド
児童書や絵本の世界を広く紹介するために、毎月１回最終金曜日、協賛出版社の推薦図書３冊を紙面で告知する広告企画で、約40年前から続いている。小学校での読書アドバイザーによる出張読み聞かせ（おはなし会）も実施している。

「親子で楽しむオモシロ体験。おとなもこどもも一緒に心の土壌を耕そう！」開催

一冊の本から、限りない想像の世界が広がる。そんな本の魅力をさまざまな手法で伝える「東京新聞こどもブックワールド・特別企画」（本紙主催、アリス館、岩崎書店、偕成社、金の星社、福音館書店協賛）が今月11日、東京新聞で開かれた。講師は「こどものための造形作家」として活動する早未恵理さん。家にあるものを利用したおもちゃの創作で知られる早未さんとともに、参加した11組の家族が菓子の空き箱を利用して、絵本の一場面を再現する動くおもちゃづくり＝写真＝に挑戦した。

〝絵本の世界〟をカタチにしよう！

「絵本にはたくさんの要素が詰まっていて、いろいろな学びや遊びにもつながっています。そして、本と同じように楽しいことは身近にいっぱいありますよね」と、早未さん。

早未家のおもちゃ登場

続いて、早未家の3きょうだいが幼い頃に楽しんだおもちゃを紹介。まずは、「末っ子の次女が赤ちゃんの頃、家中のものを引きずって歩いているのを見たお兄ちゃんが妹のために作ってあげた」弾むボール。材料は、丸めた新聞紙とつなげた輪ゴムだ。それにヒントを得て、早未さんが作ったフェルト製のカエルやウサギ、カンガルーなどの弾むおもちゃが披露されると、子どもたちから「かわいい！」と大きな声が。いずれも材料はヨーグルトやカップ麺の容器、ペットボトルなど、家にあるものばかり。

そして、ストローのイヤリング、発泡トレイ製の魚が浮かぶ金魚すくい、傘袋に息を吹き込むとできる新幹線など、3きょうだいお手製のおもちゃが登場すると、子どもの豊かな想像力の産物に会場からは称賛の声。早未さんは、「身の回りにあるものをちょっと工夫すると面白いことができます。捨てる前にぜひもうひと遊びしてみて」とアドバイスした。

おもちゃ作りスタート

早未さんが子どもたちに、かこさとしさんの絵本『あかいありとくろいあり』（偕成社刊）の読み語りをした後、参加者たちが「赤いありが大きなキャラメルを見つけるが、黒ありギャングにキャラメルごとさらわれてしまう。そこで、赤いありたちが力を合せて救い出す」という同書のストーリーにちなんだおもちゃづくりに取り組んだ。

工程は、シンプルだ。まず、キャラメルの外箱に切り込みを入れる。次に、内箱にベロを作る。そして、内箱の別の部分にアリを描き、切り取る。最後に、段ボールの切れ端で作ったキャラメルを外箱の上に貼り付け、アリを仕掛けのベロに取り付けるというもの。

大人も子どもも夢中

子どもたちは、真剣な表情でアリを描く。大人たちは、アリの触覚や脚などの細かい部分の切り抜き作業に大奮闘。早未さんのアドバイスを受けながら、全員のおもちゃが完成した。アリを動かして「舐めてる！」と喜ぶ子どもたち。

「みなさんの集中力が素晴らしかった。これからもたくさんの体験を重ねて〝面白い〟をいっぱい見つけられる人になって」と早未さんが締めくくった。

葛飾区から小1の娘と参加した奥平大樹さんは「ひとつの作業を娘と共有でき良いコミュニケーションが取れた。実は今朝、娘を叱ってしまい、ここに来るあいだ口もきかなかったが、自然と笑顔になれた」と満足そうに話した。

早未恵理さんと、ワークショップ参加のご家族

ここは、どうなってるの？

ここは、こう動くんだ！

これでいいかな？

やっと、できた！

こどものための造形作家 早未 恵理さん

〝親子の時間〟が子どもを育む

私は、子どもが育つ「家庭」というのは、「花壇のようなところ」だと考えています。日々、いろいろな種がまかれ、知らない間によそからもさまざまな種がやってくる。そのうち、子どもの中であらゆる分野の興味の芽が育っていくのです。その中から得意なことが見つかり、やがて自分自身でその芽を育てていけるようになるのではと。ですから、種は多ければ多いほど良いと思います。自分の世界を広げてくれる絵本もまた、そうした種のひとつです。

大人の役目は、どんな種が飛んできてもきちんと育つよう、栄養たっぷりのふかふかな土壌をつくること。土壌を耕すのは親の愛情です。そのためにも、絵本をはじめさまざまな体験を親子で共有することで生まれるコミュニケーションを、親子で大いに楽しんで深めて下さい。

さらには大人自身もまだ育つ途中の芽や、これから芽を出す種を抱えています。子どもと一緒にいると、新しい風がどんどん入ってきます。子どもが反応するものに便乗し、吸収し、大人もぜひ自分を育てていってくれたらな、と思います。

▷はやみ・えり
遊びクリエーター、造形作家。幼稚園教諭を経て専業主婦となり３人の子育てに従事。現在は幼児教材テキストでの遊び監修、季節の行事を楽しむ工作提案、「かこさとしふるさと絵本館」でのイベント企画など子どもや保育士、親子のための手芸や工作、遊び提案などを行っている。著書に『子どもと楽しむ遊びのヒント』（飛鳥新社）など。

Interview

企画・制作／東京新聞広告局